

平成 29 年度 第 2 回足立区経済活性化会議

会議録要旨

平成 29 年 11 月 6 日（月）
あだち産業センター 3 階 交流室

(開催概要)

会 議 名	平成 29 年度 第 2 回 足立区経済活性化会議			
開催年月日	平成 29 年 11 月 6 日 (月)			
開催場所	あだち産業センター 3 階 交流室			
開催時間	午後 3 時 30 分から午後 5 時まで			
出欠状況	委員現在数 17 名 出席委員数 12 名 欠席委員数 5 名			
出席委員	中根 雅夫	阿高 松男	岡田 ヒロミ	福田 友子
	足立 義夫	小沢 頼孝	近藤 勝	鈴木 又右衛門
	瀧野 静江	なかだ えり	本山 功	渡井 良昌
事務局	<p>(出席職員)</p> <p>大高産業経済部長、島田産業政策課長、倉本就労支援課長、 依田産業振興課長、山崎中小企業支援課長、 日比谷足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、 高橋足立区観光交流協会事務局長</p> <p>(事務局)</p> <p>産業経済部産業政策課 経済活性化計画調整担当係 池田、鈴木 株式会社富士通総研 高橋、森田</p>			
会議次第	別紙のとおり			
会議に付した議題	<p>1 計画策定スケジュールについて</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1) 次期 足立区地域経済活性化基本計画案について</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 平成 29 年度ニュービジネス支援事業の実施状況について</p> <p>(2) 平成 29 年度創業支援施設の入居審査について</p>			

(会議録要旨)

島田産業政策課長

皆さま、本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、平成 29 年度第 2 回経済活性化会議を始めさせていただきます。本日の司会を担当させていただきます、産業政策課長の島田と申します。本日の会議は公開となっておりますので、傍聴席を設けさせていただいております。また、区政情報課にて、本日の委員名簿や会議資料等を公開させていただきます。議事録作成のため、会議を録音させていただいておりますのでご了承ください。

本日は 17 名の委員うち、12 名が出席されています。規定の委員数に達しておりますので、会議は成立しています。

それでは、中根会長、ご挨拶をお願いします。

中根会長

本日は審議を通して、より完成度の高い計画を作成していただきたいと思います。関係する方が多ければ多いほど、精度が高まることが実証されていますので、委員の方々のご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

島田産業政策課長

本日の配布資料(資料 1～9、追加資料)を確認させていただきます(資料の不足がないか確認)。

(議事)

中根会長

本日は「計画策定スケジュールについて」の説明のあと、「審議事項」が 1 件、報告事項が 2 件あります。

それでは、次第に沿って進めてまいります。まず始めに、「計画策定スケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

資料 3 を用いて、計画策定スケジュールの説明がなされた。

- ・パブリックコメントの募集の時期(11 月 24 日(金)～12 月 25 日(月))を予定)
- ・次期計画の印刷・製本の時期(3 月を予定)

中根会長

続いて、審議事項「次期 足立区地域経済活性化基本計画案について」、事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

資料 4～8、追加資料を用いて、説明がなされた。

- ・変更前の足立区地域経済活性化基本計画案に関わる各委員からのご意見について
- ・足立区地域経済活性化基本計画案の変更点について
- ・足立区地域経済活性化基本計画案について

中根会長

事務局から説明がございました。追加資料と、資料8を中心に議論をしていく必要があるかと思えます。ただいまの事務局の説明で用語や言葉の意味がわからない、表現がわかりづらい、新たな方向性の示唆、施策について注意すべき点など委員の方々のご意見をいただければと思います。

本山委員

資料5の右側に記載されている「事務局の考え」を説明していただけないでしょうか。

島田産業政策課長

(資料5の「事務局の考え」欄に「今後、検討する」と記載されている箇所を中心に説明)

本山委員

資料5の「変更前の足立区地域経済活性化基本計画案に係る各委員からのご意見」にて、事務局の考えとして、「予定です。」や「検討します。」との記載があるのは、実際の計画の実行の段階で盛り込んでいくということでしょうか。

島田産業政策課長

その通りでございます。

本山委員

産学連携に関する活動については大変興味深いのですが、分野の近い東京電機大学などとの連携はイメージが付きやすいのですが、他の大学はわからない状況ではあります。

人材に関しては、区内の定着というのは言い過ぎなのではという印象を受けています。

正直なところ、前回渡井委員がおっしゃられた区の治安の話が印象深く、色々な方に足立区の印象を伺ってきました。その際、古くから住んでいる30代の人や、今年入社してきた新人の方に聞いてみると、実際、足立区の治安は悪いわけではなく、メディアに植え付けられたイメージなのではないかという意見が挙げられました。メディアによって、治安のイメージが悪くされたのであれば、逆にメディアの力を使って、足立区の印象を良くできるのではないかと思います。

内定式の際、私どもの会社に入社予定の新人の方から聞いたのですが、足立区に就職することを周囲に伝えると良いイメージをもたれなかったようです。犯罪件数だけいうと、自転車盗難が多いので、それらの対策を行えば減るのではないかと思います。

中根会長

ソーシャルメディアが活発になると、フェイクニュースも蔓延するわけですので、足立区からの情報発信を更に活発に行い、本山委員がおっしゃられた足立区の悪いイメージを払拭するような努力を日々行う必要があるかと思えます。

瀧野委員

足立区のことについて、資料を読んでこの場で発言をすることは、自分にとっては重い気がします。もう少し勉強させていただいた上で、発言をさせていただければと思います。

足立区のイメージが良い方向に向くように今後していきたいと思っています。

中根会長

消費者の問題も相談件数が増えている実態もございますし、例えば金融に関して言うと、ビットコインやフィンテックという新しい対応により、既存の銀行の対応も変化してきます。そのようになると、より消費者に対する混乱を招く可能性もございます。したがって、今後は消費者の立場に立って、区内の状況を考えていくことは非常に重要かと思えます。

近藤委員

ロンドンオリンピックの際に、ロンドンはプレゼンテーションの際に、沢山あるうちの条件の1つとして、リサイクルやゴミ処理など、街の衛生面が他国よりも非常に優れていることをアピールしていました。世界中で、分別回収を行っているのは日本のみであり、分別回収を行うことで、結果的に焼却するゴミが削減されますので、我々リサイクル業界としても、そのようなことを東京オリンピックでアピールしたいと思っています。このように、足立区でも徹底的にリサイクル率を高め、クリーンな街であることを特色づけることでもイメージアップにもつながっていくのではないかと思います。

中根会長

さきほどから、足立区のイメージが悪いという話があり、そのような中で、リサイクルに積極的に取り組み、悪いイメージを一色するという有効な手段かと思えます。

足立委員

商店を行っている立場から申し上げますと、足立区は物価が安く、生活しやすいとおっしゃる方が多いです。我々は安く売っているつもりはなく、普段通り売っているのですが、都心と比較すると物価が安く、生活しやすいという特徴があるようですので、これからも安く良いものを販売しようと思っています。

中根会長

一方で、商店街が従来のある方から変わり、さびれている現状もあります。そのような所をどのようにするのか、空き店舗の有効活用問題についても是非、アドバイスをいただきたいと思えます。

渡井委員

足立区は本当に良い街ですが、それがなぜ伝わらないかと言いますと、実施していることが中へ入ってしまっているからだと思えます。私たちは、どうしても一企業の範囲や一商店の単位でしか活動ができず、行政のように大きな視点や大きなアプローチはできません。したがって、例えば起業することに対して、懐が大きい区であることなどを、ピックアップして発信していくプロモーションや街づくりを外へ外へと発信していくようなことを是非行っていただきたいと思えます。それは、特に2020年という大きな目標に向けて実行できるタイミングでもあると思えます。形のあるモノをピックアップするだけでは、他区と比較してしまうと見劣りしてしまう部分も大きいかと思えますが、それぞれの企業や個人の力は、ものすごく輝いており、パワフルな部分がありますので、それらを積極的に外へ発信していけば、内側からの誇りにも変わっていくのではないかと思います。

中根会長

足立区から情報発信していくことの重要性がここでも浮き彫りになったかと思います。メディアを通した発信もさることながら、区民の1人1人の口コミ評価も期待する形で、積極的な働きかけをどのようにしていくかも今後考えていかなければならない点かと思います。また、マーケティングの観点から考えますと、モノの消費からコトの消費に移っている傾向があります。それを足立区で、良い具合にシフトしていく形で対応していただきたいと思います。

なかだ委員

皆様のお話を受けて、なぜ足立区に住み始めたか思い返してみました。その時代は、アートをしている人もいなく、リノベーションもなかった時代です。しかしながら、その当時は未開だったからこそ、周りの人がやっていないような取り組みや面白いことができるのではないかと思います。足立区に来たように思います。足立区には余白が沢山あり、可能性が沢山あるのではないかと思います。感想がありました。

また近年、人気のあるANZEN漫才などの影響で、近所の高校生も足立区出身であることを周囲に伝えると、あの面白そうな街とおっしゃってもらえるようになったようで、足立区のイメージもあまり否定的には捉えられなくなったのではないかと思います。実際に来街された方が、商店での買い物や観光も含めて気に入ってもらえる方も多いですし、来てもらえれば良さがわかるので、足立区に来てもらうまでの仕掛けを、足立区のみならず、墨田区やオリンピックなどと兼ねるなど、対外的なもの連携していくと良いと思います。足立区は、1度来てもらえれば、良さがわかり、2度、3度と訪れてもらい、引っ越すことまで考えられる街だと思います。

中根会長

なかだ委員がおっしゃったように、やりがいや面白さを、今後どのように活かしていくかという視点も必要になるかと思います。

鈴木委員

実際に基本計画を実行する産業経済部の皆様が動きやすいように、また、他部署との連携も踏まえながら、計画を作成していただければと思います。今回の活性化会議では、専門性を持った方々が委員として選抜されていますので、皆様の専門性を持った施策に関しては、例えば各委員の方がリーダーになり、計画を1つ実行していくことが重要かと思います。計画を実行する上で、ヒト、カネ、場所、時間などが集まる場を作っていただけないかと思います。そのようにして、実行されることが増えていくと、足立区の魅力も益々増していくかと思います。

足立区の治安問題は、綾瀬のコンクリート事件から悪くなったように思います。

小沢委員

事務局から説明いただいた点から面に展開していくということに関して、例えば足立区立郷土博物館とギャラクシティなど、箱から箱へという展開に加え、もう少し人にスポットライトが当たるような仕組みがあると良いかと思います。先ほど、中根会長がおっしゃられたように、世の中はモノ消費からコト消費へ動いておりますし、コトを興すのは人の力だと思います。

以前、私どもの工場が足立区の広報誌である「ときめき」に、足立区の綺麗な工場と紹介されました。なかなか普段、脚光浴びるような町工場ではありませんので、広報誌に載せられたことで、工場スタッフのモチベーションが、かなり上がりました。足立区の工場の方は、フレンドリーだし、面白いと言ってもらえるような仕組みができてくると、足立区の小さなところから良く

なっていくのではないかと思います。人の力を伝えられるような環境があると、足立区の良さも広まっていくのではないかと感じました。

中根会長

人の力の重要性が指摘されました。点から面への展開について事務局から補足説明をお願いいたします。

島田産業政策課長

例えば、かつて元気だった商店街ですが、生き残っている商店街が少なくなり、しもた屋や一般家庭が増えています。そのような状況の中で、まだ頑張っているお店や、頑張ろうとしているお店がまだまだありますので、そのような方にスポットを当て、取り上げさせていただきたいと思っています。例えば、足立区でお土産に相応しいお店を区民に尋ねて、情報をいただき、ベスト 10 のお店を地図に掲載し、紹介していくような形も考えています。そのようにすれば、例えば、北千住にいても、鹿浜の良いお土産を購入できるようにもなるといったように、点と点をつないで、面となるようなことも考えています。

福田委員

今回の足立区の計画の中で、「協創」というキーワードが素晴らしいと思いました。そのようなキーワードがきちんと落とし込まれるような基本計画になると良いと思っています。前回の部会の際に、若手の経営者の方は中々、ベテランの経営者の方とのコミュニケーションの場が少なく、本当は先輩に気軽に色々なことを聞きたいけれども、中々そのような機会がなく、創業間もない頃に抱く不安が解消できるような機会があると良いという話があったかと思います。足立区内の創業者と経営者が密に連携して、更にパワーアップしていくと良いかと思います。

また、農商工連携というところで、私自身は足立区内の農業がどのような課題を抱えているかまでは把握できていませんが、農作業や加工作業や合理化といった観点で、工業の要素や開発の要素が少し含まれてくると思いますし、生産者とダイレクトに商業が繋がるような仕組みなど、具体的な事例が入ってくると、よりイメージが明確化されるかと思いました。農業というと農業だけの完結になりがちですが、そこを協創というところにつなげていくのならば、そのような要素も入れていければ良いかと思います。

中根会長

農業に関しては、六次化産業の流れも出てきていますので、農家、加工業者、小売業が協創していくと、より具体的になっていく気もします。

岡田委員

今回案を見せていただき、事務局が「つなぐ」というところを非常に良くまとめていただき、全体像が良く見えるようになったかと思っています。

また、今回の基本計画を作成するにあたり、区民アンケートの回答率が非常に高いかと思っています。そのようなことも踏まえすと、今回の基本計画の成果について、区民の方に PR を行えば、さらに関心を持っていただけるのではないかと思います。

今回、各産業別にどのようにすれば良いのか、また行政はどのような支援をすれば良いのか、なおかつ、異業種産業の連携をどのように模索すれば良いのか等がまとめられています。基本計画が完成した際に、各産業が目標に向かって活動を始めた時に、行政は最低限の支援をしなければ

ばならないかと思いますが、一番重要な役割を担うのは、区民であるかと思いますが。どんなに産業や行政が努力し、活性化しようとしても、区民がそれに対して理解し、協力しなければ、発展はないかと思いますが。そのような意味から、今後の消費者センターの役割は、現在行っている苦情の解決や、消費者教育に加えて、経済に対して消費者がどのように働きかけていくべきかという市場経済の教育に力をいれなければならないかと思いますが。その意味では、この基本計画は最初の教科書になるのではないかと考えています。

また、この計画では消費者に関してみますと、消費者は受け身であり、悪質商法が前面に出ている印象を受けますが、消費者は大変重要な役割を担っていますので、それらを忘れないでほしいと思います。

中根会長

消費者に対しての能動性に関して改めて認識してほしいということですが、それに対して区はどのようにお考えでしょうか。

島田産業政策課長

今回の計画では、1 つには消費者被害の未然防止、相談支援の充実といったことしか記載がございませんので、今おっしゃっていただいた視点を取り込んでいければと考えています。

阿高委員

IT が進歩すると生産性が上がり、人間に余裕ができると思いますが、まだまだ中小企業には、IT 技術が普及していません。今後は中小企業や商店でも IT を活用し、人間に余裕を作っていくといけないと思いますし、ワークライフバランスも、まさしく余裕がないとできないと思います。若い人達にとって、魅力のある職場というのは、過去のやり方のように、とにかく頑張れというだけでは話になりません。したがって、余裕ができるような職場づくりを行う上でも、就労関係で職場環境の整備を進めていただきたいと思います。

また、農業の関係でも IT 技術を導入し、余裕を作っていく必要があるかと思いますが。いくら若い人を育てようと思っても、魅力がないと若い人は行く気にならないと思います。

また、つながりができるのは良いと思いますが、企業のネットワークを構築しても、足立区の中小企業が何社か集まって、コンソーシアムの形で運営し、新しいことを行う場合は、それらをコーディネートする人材が必要であり、その辺りの人材育成という観点が抜けているような印象を受けました。私どもの大学でも、大学の教員と企業の間でコーディネーターを介することで、非常に研究効率が向上していますし、先生方の雑用が減少しています。コーディネーターになっている方は、企業を辞めた 60 代がほとんどで、大企業で研究開発の企画部長を行っていたなど、技術全体を見渡せる人でなければ、コーディネーターとしては育たないと思います。区内でも、そのような方は沢山いるかと思いますが、そのような方に働いていただくことも大事だと思います。

中根会長

ただいまの発言の中で、IT の広範な活用が必要であること、また、つながりといった中では、企業と企業をマッチングさせるコンソーシアム的なあり方も必要と言ったご意見をいただきました。特にコンソーシアムなつながりに関して、何かございますか。

大高産業経済部長

最終消費者がおられて、製造が行われ、商品が作られ、販売されていくと思います。したがって、市場経済に対するアプローチは、能動的にあるべきだと私も思います。また、コンソーシアムの話も、単純にコンソーシアムを作っただけではダメで、最終消費者からの要望やニーズなどの引き金があって、コンソーシアムをプロデュースし、それらを研究開発や製品にフィードバックしていくような、つながりがないと厳しいのではないかと思います。また、なかだ委員がおっしゃっていた街の魅力ですが、街のハードウェアとしての魅力はもちろん、人の魅力も大きいという考えを持っています。

また、イメージのお話を随分いただきました。やはり綾瀬のコンクリート事件のイメージが引きずられているかと思いますので、今後メッセージの出し方を皆で考えていかなければならないかと思います。

また、街の魅力の中で、街が綺麗でいいというのも近藤委員がおっしゃる通りだと思います。街の綺麗さということも当然ですが、清掃計画が今後作成されてきますので、それらの中で、リサイクル率をどうしていくのかといった観点も出てくるかと思います。やはり、そこで暮らす区民の方に、リサイクルに対する観点や、ゴミのポイ捨てといった悪しき波及効果についての認識をしっかりとっていただき、お互いに街を綺麗にしていきましょう、という引き金を引き続けるような仕組みを取らないと、厳しいのではないかと思います。

まさに、この計画は、色々なところでのつながりを持ちながら、それぞれの役割をもう一度見直していただき、元気な地域経済を作るという方向性ではありますので、皆様のお立場で役割機能を果たしながら、計画を温かく見守っていただきたいと思います。

島田産業政策課長

いただいたご意見を、今後計画に反映させていただきながら、まとめていきたいと思います。

中根会長

本日委員の方々から様々意見をいただきました。それらを反映させた形でパブリックコメントを行っていくということで異議はありませんでしょうか。

各委員

異議なし。

中根会長

それでは、本日の意見を反映させた形でパブリックコメントを行っていただければと思います。続いて、報告事項をお願いいたします。

山崎中小企業支援課長

資料9を用いて、説明がなされた。

- ・平成29年度ニュービジネス支援事業の実施状況について
- ・平成29年度創業支援施設の入居審査について

中根会長

本日の会議をこれで終了したいと思います。

以上